

## 第 8 回 胎内市総合計画策定審議会 議事要旨

## 1. 日時

平成28年8月3日（水）19：00～20：30

## 2. 場所

胎内市役所 5階501会議室

## 3. 出席者

## 【胎内市総合計画策定審議会委員】

中野友美委員、高橋三樹男委員、中原拓也委員、関谷浩史委員、高橋賢一委員、安城守英委員、威本悠希委員、久世秋絵委員

## 【事務局】

総合政策課長、総合政策課企画政策係長、係員、計画策定支援事業者

## 4. 議事内容

事務局よりパブリックコメントの内容とそれに対する市の考え方を説明した後、基本構想案について資料に沿って説明を行った後、各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

- 分かりやすさを追求するのであれば、文字に頼らずにガラッと絵に変えてしまうということも考えられるかもしれない。
- いろいろな方が見るものなので細かい文言については“これが正解”というものはないと思う。そうであれば、作る側がこうだという内容を示すのが最も伝わるのではないかと。1点気になったのは、序論の3が長いと一般の方が読みづらいものになっていないかということ。結論に当たる基本構想の部分を前に出して、どうしてこうなったかという背景に当たる序論は後で答え合わせをするような構成の方が良いのではないかと。  
〔一般的な流れを踏襲した違和感のないものにしたいと事務局回答〕
- 修正した4頁の図は分かりやすく、特に違和感を感じなかったものでこれで良いと思う。一方、次の頁の表は括弧書きで説明が追記されたことによって見づらくなったように感じる。「～～まち」という目標と括弧書きの内容をあわせて一文で示すことができないか。  
〔表現を再考したいと事務局回答〕
- 基本政策5つ目の“自治・協働”については“経営”に改めるという考えもあったようだが、“経営”というと市民には難しい話に聞こえるので、自分に関わるんだという気になる“自治・協働”の方が良いと感じる。
- パブリックコメントの指摘が、共感できる内容で本当に真剣に考えていただいた素晴らしいものだと感じた。その対応についてもこの内容で良いと思う。それから“結論が先か背景が先か”という問題提起があったが、今回は第2次の計画なので“今までの10年間を振り返ってどうだったか”という繋がりを先に示した方が良いのではないかとと思う。
- 産業分野では製造業を中心に記述がなされているが、私がこちらに赴任した時に感じたのは建設・建築・土木といういわゆる建設業者がこの規模のまちとしては本当に多いなということである。確

かに売上規模や大手企業が立地しているという面で工業・製造業が中心という捉え方ができるかもしれないが、携わってる会社の数や従業員さんの数を考えると建設業についても触れた方が良いのではと感じた。

- パブリックコメントの4番目の中で、“評価そのものが甘いと感じる”という指摘がある。甘いかどうかは個人の感覚によるところもあるが、実際にはどのような基準で評価を行っているのだろうか。

〔アウトカム・アウトプット等数値化した指標により行政評価等を実施していると事務局回答〕

- 多くの人が容易に理解するために5ページのような表が掲載されているのは良いことだと思う。
- 目標像となる表現があり、政策の方向性がある、10年後のまちの姿が具体的に書かれているので分かりやすい。全体的に見て一般の市民の方が読んで分かりやすくなっていると思う。気になったのは8頁②の記述で、“市内の中学生の進学が～～”という部分。市内の高校には、市内の子だけでなく市外の子も来ていただきたいと思っているので、市内限定と捉えられるのは好ましくないと感じた。
- 今回の計画の中では“未来への投資”、つまり限られた財源をどう活用して未来に持続させていくかという部分が非常に大事で、そのために市民の暮らしを支える基盤と仕組みの中に“自治〇〇”という柱があり、ここが1次と2次の大きな違いであったと思う。前提として、今の地方創生には、KPIという目標を設定して、かつ地域が“こういうことを解決したいからそれに対して補助してください”というのが基本ルールで、その目標が守られないと予算が粛々と削られていくという国の方向性がある。財源が減れば道路や上下水道が老朽化したとしてもメンテナンスもままならない。人口減少と高齢化社会の中で公共分野においても経済合理性が問われるというのが最大のポイントであり、その時に経営的視点というものを除外して良いのか。そして“未来への投資”とは、子供たちに現状のしわ寄せをできるだけ負わせないようにすることだと思う。そのためには子どもの教育をより充実して可能性を伸ばしてあげなければいけないし、同時にこういう社会基盤を維持するためにかかるお金をなるべく負債として後世に残さないようにしていくことが必要となるが、それは行政だけは絶対にできない。市民が理解して初めて成立するものなので、どういう文言が良いか分からないが、この辺りが理解していただけるような発信をして欲しいと思う。
- 今までは予算というのは国から県、県から市へという流れだったがこれからはそうではない。自分たちが考えてそれをあげてということであれば、10年前と大きく違う訳なので、そういうことをどこかに含めておくのが大事だと思う。
- 行政も細かな末端の事までは分からなくて、住んでいる人が声をあげない限りその課題というのは永久に解決されない。地元の声を吸い上げやすいような体制や配慮というのが市民協働の1番大きなポイントだと思う。
- ワークショップに参加した際に、いろいろな人の集まる場を利用して市民の声を集めるスペースを設けたら良いというアイデアがあったのだが、こういうサロン活動をうまく活用できると良いのではと感じた。ただ、若手や学生には縁が薄いような気もするので、それにはまた別の仕組みを考えなければならないかもしれないが。
- 地域の課題を吸い上げても、行政自体が縮小しているのでそれを捌ききれないという問題がその先に出て来るのだが、行政と地元の間をつなぐ中間集団をどう作るかというのがポイントになる。これに関してはソーシャルインパクトボンドというイギリスの取組などが参考になる。ソーシャルイ

コンパクトボンドとは、使われてなくて廃墟になったエリアに市民が投資をしてカフェや住居を入れて再生する。その結果雇用や家賃等の成果が生まれるとそれに応じてリターンがあるという仕組みである。これからの社会は税金だけで全てに対応することは無理だということが明らかになっており、地域の課題に対して住民が投資をする時代が必ずやってくる。結果的に経営的視点というものが市民に求められるようになるし、実際にグローバルではそういう動きが拡大する一途にあるということを経験提供しておきたい。

- 個人的には、かわいい子には旅させよではないが、1回外に出ないと胎内市の魅力というのが分からないと感じているので、市外のことを知ってから戻ってきてもらいたい。誇れる点は、待機児童ゼロや18歳までは医療費530円ということ。当たり前に行っているのに誰も何とも思わないのだが、外に出た人・外から入ってきた人はそういうことが分かっている。
- 教育委員会では、キャリア教育の一環として、ふるさと体験や職場体験に加えて子どもハローワークという取組を始めたところである。1年目の今年は市の行事等の機会に子ども達がお手伝いをしてもらっている。
- 情報過多の時代なので情報発信はやり過ぎくらいでちょうどいい。是非検討して欲しい。それから基本構想について1点、交通・移動手段に関する内容を加えなくても良いだろうか。観光との関わりも大きく、これからは車の移動が贅沢な移動手段になってくるだろうことを考えると触れておくべき内容だと思う。